

NISSHA 株式会社
「2019年12月期 Q2 決算説明会」
質疑応答の要旨
(2019年8月6日開催)

Q1. モビリティ（自動車）ユニットの業績貢献はいつから始まるか。

A1. 自動車の内装や外装の加飾を手掛ける産業資材事業と機能部品を扱うデバイス事業のそれぞれの強みを融合させ、モビリティ（自動車）分野での成長を促進していく。両事業の融合製品という観点では、早ければ2020年度には実績が出てくるだろう。

Q2. デバイス事業の業績予想修正の要因は何か。

A2. スマートフォンの需要減少が主要因。競争による需要減少ではなく、お客さまの需要そのものが減少している。

Q3. スマートフォンの需要のピークはいつか。

A3. ピークはQ3になるだろう。

Q4. 2020年度以降、スマートフォンの需要は減少すると見ているのか。

A4. 需要は減少する可能性があるだろうが、そうなれば激しい季節的な需要変動がなくなり、生産が平準化されることで収益性の向上につなげることができると考えている。

Q5. スマートフォン向けの固定資産はどれくらいあるか。その固定資産を別のアプリケーション向けに転用することは可能か。

A5. スマートフォン向けの固定資産は多くない。タブレットやモビリティ（自動車）向けなどに転用することは可能。

Q6. Lens Technology との JV を今後どのように活用するのか。

A6. 当初想定していた製品の需要は弱い。新たなお客さまの製品やモビリティ（自動車）向けに活用できることもあるだろう。

Q7. デバイス事業の営業損失が Q1 から Q2 で拡大している理由は何か。

A7. Q2 は生産（工場）の稼働率が低調だったため。

Q8. 2019年度の設備投資額と減価償却費の計画に変更はあるか。

A8. 計画に変更はないが、設備投資を可能な限り抑制するため設備投資額は減少するだろう。したがって、減価償却費も減少する方向だろう。

Q9. 産業資材事業の2019年度の業績予想を下方修正したが、2020年度の見通しはどうか。

A9. 2019 年度当初の計画までの回復を目指したい。

Q10. 産業資材事業の海外成形工場での品質問題はどのようになっているか。

A10. 改善しているが、月次での黒字化は Q4 までかかる見込み。

Q11. メディカルテクノロジー事業の営業利益が Q1 から Q2 で減少した理由は何か。

A11. 製品ミックスにより減少。Q1 では受託製造分野で利益率の高いお客さまの需要があった。

Q12. 業績予想の修正において、その他の費用が増加した要因は何か。

A12. R&D 部門の体制変更の影響。